

スクラム

2023年8月号
第220号

編集・発行

「スクラム」編集部

〒732-0057 広島市東区二葉の里 1-3-16 スクラムユニオン・ひろしま

TEL/FAX 082-264-2310 scrum_u34@ybb.ne.jp 郵便振替 01310-1-65053

銀行振り込み先 もみじ銀行 三篠支店 普通 口座番号 1820186

最低賃金大幅引き上げ 時給1500円を訴える



スクラムユニオン・ひろしまは、7月23日に広島そごう前で、郵政ユニオンやNPO非正規労働相談センターひろしまの仲間と一緒に、今年度の最低賃金の大幅引き上げを呼びかける情宣活動を行った。

全国の消費者物価指数は5月分で前年同月比3.8%、6月分で3.3%上昇している。にもかかわらず、給料は十分に上がらず、実質賃金は低下し続けている。

パート・契約社員等の非正規雇用の数は全国で2111万人。非正規雇用労働者の多くは最低賃金の近くで働いている。彼らは、長時間働いても貯蓄もできず、将来不安が広がっている。

世界では最低賃金引き上げられているが、日本では最低賃金が大幅に引き上げられる様子がない。昨年10月に改定された最低賃金は、わずか31円（約3.3%）アップの全国加重平均で961円でしか

かった。広島県の最賃はそれより低く930円だ。これでは、月177時間働いても月収16万円強にしかならない。ここから社会保険料や税金が差し引かれ、さらに家賃がひかれ、おまけに物価の高騰が続く。とても人間らしい生活はできない。

6月30日から中央最低賃金審議会が開かれ、今年度の最低賃金改定に向けての審議が始まった。マスコミでは今の全国加重平均時給961円が1000円になるかに注目が集まっている。しかし、仮に最賃が時給1000円になっても、月収は18万円にもならず、年収は200万円を切る。

私たちは、「もうこれ以上、我慢ができない」「時給1000円では暮らせない」「物価高騰を超える賃上げを」「全国一律、時給1500円へ、最低賃金を大幅に引き上げろ」と訴えた。時給1500円でようやく年収300万円に達することができる。

ビラを受け取り、立ち止まって私たちの切実な訴えに耳を傾ける市民も多くいた。物価高、特に電気代高騰に不満を述べる人、国会で居眠りしている議員たちに生活の厳しさをぶつけてやりたいと話しかけてくる女性、本当にそのとおりだと話しかけてくる大学生もいて、最賃大幅引き上げの訴えは多くの市民に共感をもって受け止められた。

関西電力高浜原発1号機の再稼働に抗議する座り込み」行動報告

7月28日、広島県原水禁と平和運動センターの呼びかけで、平和公園原爆慰霊碑前で「関西電力高浜原発1号機の再稼働に抗議する座り込み」が行われ、急な呼びかけにもかかわらず労組員・平和団体などの約30名が参加した。

はじめに「原発はごめんだヒロシマ市民の会」代表で広島県原水禁常任理事でもある木原省治さんが、高浜原発1号機はすでに運転開始から48年経過した老朽原発であることを明らかにし、この危険な老朽原発の再稼働を強行した関西電力に対して怒りの意思を示した。そして、この老朽原発の再稼働は、原発の60年間の運転延長を認めるとした「GX推進法」適用の第1号になるものであり、この暴挙を黙って見過ごしてはいけないと警鐘を鳴らした。また、この高浜原発1号機は12年間停止したあとの再稼働であり、これに伴う事故発生の危険性を指摘した。さらに、9月中旬には高浜原発2号機も再稼働が計画されているとして、広島の地から抗議の意思を示そうと呼びかけ、参加者は抗議の座り込みに入った。

座り込みの終わりに、広島県原水禁金子代表委員は、「原子力緊急事態宣言」が解除されていないなかでの福島原発汚染水の海洋投棄強行に反対しようと呼びかけ、老朽原発の再稼働という原発依存政策へ回帰した岸田自民党政権に対しても強く抗議しようと呼びかけ、参加者に訴えた。

最後に、高浜原発1号機の再稼働に抗議し、原発に依存しないエネルギー政策を求めるアピール（別紙）が提案され、参加者全体で確認された。



8月3日 広島平和行進

今年も暑い夏がやってきた。8月6日、9日はわれわれが忘れてはならない日である。広島、長崎にアメリカによって原爆が投下され、多くの市民が虐殺された。これはアメリカによる戦争犯罪であった。

再び、ロシアによるウクライナ侵略戦争の渦中であって、核戦争の危険性が増大している。二度と核兵器が使われるようなことがあってはならない。「核と人類は共存できない」この真理を訴えるためにも、原水禁運動を継承し、発展させていかねばならない。

8月3日、稲荷橋西詰に結集した労働者、市民は平和行進の一環として平和公園までデモ行進した。スクラムユニオンの仲間たちは、熱い日差しの中、最後までデモを貫徹した。当日、ベトナム人実習生の裁判と重なったため、参加人員は少なくなりましたが、それぞれがスクラムユニオンを代表して、核兵器禁止を訴え、平和を守ることの重要性をアピールした。



被爆78周年原水爆禁止広島大会「上関原発を考えるつどい」報告

被爆78周年原水爆禁止広島大会の「ひろば・フィールドワーク」のひとつとして8月5日自治労会館3階大会議室において「上関原発を考えるつどい」が開催され、全国から約30名が参加した。おりから、上関原発予定地に使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設の動きがマスコミで発表され、注目の下での開催となった。

つどいでは「原発に反対する上関町民の会」の事務局次長を務め、現在、上関町議2期目の山戸孝さんの講演と「自然を守る会」の高島さんの「上関原発予定地は奇跡の海」と題した講演があった。

山戸さんは、上関原発計画の経緯を簡潔に述べたあと、岸田政権の原発政策転換と上関原発計画の現状を以下のように説明した。

原発建設計画に対する賛成反対は、推進7、反対3でほぼ固定している。岸田政権の原発政策転換は主に再稼働に関したもので、全くの新規となる上関原発計画には大きな影響はないというのが地元の原発推進派・反対派の共通の認識だ。中電も島根2・3号機が稼働すれば電力供給能力は余裕が生まれ、莫大な建設費を投入して上関原発に資本・人的資源を振り分ける必要はない。現状では新設計画が進む見込みがないことで一致している。

こうしたなかでの今回の中間貯蔵施設建設の動きについてこう述べた。

実は、上関町議会は、2021年青森県六ヶ所村の核燃施設と中間貯蔵施設を誘致したむつ市を執行部及び議長が視察していた。この時の議長が今の町長なのだ。原発計画が行き詰まるなかで、上関町長が中電に原発建設に変わる地域振興策の提示を求め、今回、中電が上関町長に関西電力と共同での使用済み核燃料中間貯蔵施設建設案を提示し、町長が議会に判断を丸投げしているとのこと。

今後の予定は、8月8日に町議会全員協議会が開催され、8月中旬開催の臨時町議会で調査受け入れ決議予定とのこと(マスコミ報道では町議会の全員協議会は非公開で開かれ、住民説明会開催を検討することになった)。

中間貯蔵施設といっても、再処理施設の完成のめどが全く立たない現状では最終処分場になる可能性が大きい。上関原発の反対運動は、原発建設反対から核燃料サイクル施設の建設にも反対する運動として再構築が求められる局面を迎えている。

「自然を守る会」の高島さんは、建設計画を遅らせた環境アセスメントの闘いを報告し、中間貯蔵施設誘致ではなく、“瀬戸内最後の楽園”といわれる上関の自然を活かした町づくりでこれに対抗しようと熱く呼びかけた。

東広島市技能実習生死体遺棄事件判決について 岩下康子

東広島市で加熱性水産加工に従事するS技能実習生が孤立出産し、死体遺棄した事件における裁判が、8月3日に行われ、即日結審した。Sさんを支援する会からは、多数のメンバーが傍聴席に座ったが、記

者席も埋め尽くされるほどの報道陣が詰めかけていた。

起訴事実は次の通りである。「S は妊娠の可能性について十分認識しているにも関わらず、ウソをついて入国し、その後も妊娠について誰にも相談しなかった。1月20日、寮の浴室で出産し、その1週間後に、近隣の空き地に腐敗が始まっていた死体を杜撰に埋めたものである。S の信仰に照らすと、通例の埋葬行為とはかけ離れた行為である。」証言台に立った S は起訴状にある事実をすべて認め、弁護人もこれを争わないとし、彼女が日本に来る前からの出来事について淡々と問われる流れとなった。

この日のやりとりを聞いていて、違和感を持ったのは私だけではない。「なぜ、彼女はそこまでして日本に来なくてはならなかったのか。」「なぜ、彼女は誰にも相談できなかったのか。」という彼女を取り巻く背景や技能実習生という立場について、言及することは全くなかったからだ。すでに、技能実習生の妊娠や出産は公に認められているので、彼女の妊娠や出産は十分サポートされるはずだったという前提の下で審議は進んでいった。果たしてこれは公正な審議といえるのだろうか。当初から様々な懸念は多かった。事件当時19歳という年齢から家裁送致だったはずが、逆送の上、送検された。これに異を唱える法律関係者もいた。S の行為が人としての道を踏み外したものであることは間違いがないが、借金の返済と人命とを秤にかけなくてはならない葛藤を考慮せず、日本経済を優先する制度に問題はないのか。困窮する人たちに甘言を弄しては動員することで制度は回っているのではないのか。裁判の傍聴席から、「産むも地獄、墮ろすも地獄」だった S の状況に思いを馳せる。孤立出産の現場では、産む S も命を失う危険がある。S にとっては、強い信仰心が墮胎を許さなかったが、いずれの道を選んだとしても茨の道であった。

「求刑1年4か月、執行猶予3年」が S に言い渡された。これは、今後の S の在留資格更新を阻むのに十分な理由となりうる。支援者一同、S が今後も日本で働き続けられるよう働きかけていくが、非常に厳しい状況にある。S は最後にこう述べた。「異国でこんな事件を起こしてしまい、関係者を含めすべての人に申し訳ないと思っている。日本の皆さんにも謝罪したい。また、子どもに対してもどんなに謝罪の言葉を述べても言い表せない。そんな中、こんな自分のために動いてくれる支援者の人たちに出会った。本当にうれしかった。今の自分には何もできないが、必ず将来に渡って恩返しができるように、私は頑張って生きていきたい。」これは、彼女の決意表明である。彼女が来年も笑って、日本で就労できるような環境があることを切に願ってやまない。

被爆78周年原水爆禁止世界大会長崎大会に参加して 加藤佑典

修学旅行で訪れて以来、二十数年ぶりの長崎で「原水爆禁止世界大会長崎大会」に参加してきました。原水禁長崎大会に参加してみないかと話があったから、ここ2、3年で衰えてきた体力づくりから始め、ウォーキングやランニングにて平和行進に備えて準備してきました。



7月28日に台風6号が発生し、さらに九州に接近するためニュースで警戒が報じられたのが8月3日で、情報を入力しながらの参加となりました。

8月7日に長崎に到着し、猛暑が迎える中、路面電車で長崎ブリックホールへと向かいました。海外からの観光客も多く、電車の窓から歴史的な建物を見ながらの移動となりました。

会場となる長崎ブリックホール、ブリックはレンガの意味で建物の外壁には約32万個ものオランダ製のレンガが使用されているそうで、長崎の地が歩ん

だ歴史と文化を重んじた長崎大会の会場でした。

15時30分より開会式総会が始まり、黙とうを捧げ、その後、全国の高校生平和大使による日本各地で平和を願ってスケッチブックを掲げる「ピースブックリレー」の上映がありました。

私が学生だった頃は、映像や音楽といったコンテンツを総合的に扱う技術が現在ほど確立しておらず、インターネットが普及していなかったこともあり、文字だけの表現しかありませんでした。しかし上映された「ピースブックリレー」では、音楽アーティスト協力のもと、視覚と聴覚といった感性を通じて訴える試みが高校生という世代でなされていることに強く感心しました。

また、ロシアによる核兵器を脅しとした挑発や、被爆地ヒロシマやナガサキのように多くの犠牲者を出し、「核」の在り方を考えさせられるものになった核燃料を、なぜ我が国が原発に使用しようとするのかという事情についても話が触れられました。

核の利益で国や政治家、企業の懐が潤うからといった単純かつ利己的な理由で、この世界、この自然、そして地球上に溢れる生命を、放射性物質という不可逆な脅威に曝してはいけません。

他人に共感する心があり、誰かのために生きられる人でありたい。起こりうる悲劇を起こさないためにも、私もこの考えに強く同調せざるを得ません。



第 2 2 回定期大会を終えて 藤田勉

定期大会で遠方からお越しいただいたブラジル人家族とフィリピンの技能実習生の皆さん、そして通訳の方々と交流ができたこと、本当に意義深いことでした。言葉や文化の違いを超えて彼らとの絆を深めることができました。多様な背景を持つ方々との交流はとても大切だと感じました。また、大会では、他の組合員とお互いの意見や経験を共有し、労働者の権利や賃金等について議論することができました。

ブラジル人家族の皆さん、以前私が好きなバンドがリオでコンサートをした映像をDVDで見た時、本当に衝撃を受けました。観客がエネルギーで熱い！凄いパワーのある国だと感じました。異文化の中で労働し、家族を支えることは大変だと思いますが、持ち前の力強さでその困難を乗り越えていかれると信じています。

フィリピンの技能実習生の皆さん、母国から遠く離れた場所で労働し、技術や経験を身につけるために努力していることに感銘を受けます。新たな文化や習慣、言語の壁に直面することもあると思います。今は大変な状況だと思いますが自信を持って前進してください。

すべての労働者が尊重され、公正な待遇を受けられる社会を築くことを願っています。そのためには、国境や人種を超えた連帯が不可欠です。このような国際交流の機会を通じて、私たちはお互いをより深く理解し、団結していくことができると思います。これからも多様性を尊重し、国際的な連携を深める努力を続けていき、皆さんとの出会いが、スクラムユニオン・ひろしまの組合活動のさらなる活力となることを願っています。

最後に改めてご参加いただいたブラジル人家族とフィリピンの技能実習生の皆さん、そして通訳の方々に感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。団結して労働者の権利を守り、共に成長するために、一緒に力を合わせていきましょう。

第 22 回定期大会を終えて 古谷忍

私がスクラムユニオン・ひろしまと出会ったのは、2021年の年末まであと1週間というころでした。そして、昨年の8月の定期大会で執行委員となりました。コロナ禍の真ただ中でしたので、2年間ほど行事ごと中止または人数を絞った開催になり、結果としてスクラムの中でも限られた人たちとの交流しかありませんでした。

しかし、今回の総会は人数制限なしで、出雲地区や山口県の仲間も参加しての開催となり、多くの方々と交流が出来、さらには大会後の懇親会で親交を深められて、非常にうれしいものとなりました。また、出雲地区の方々からの闘争発表の中で、問題発生にどう対処したらよいか、迷ったり困ったりしときに委員長や書記長、尾坂執行委員が真摯に耳を傾け、解決に向けて尽力されているということ、生の声として聴けたことはとてもよい刺激になりました。どの方も委員長や書記長、尾坂執行委員への感謝を必ず述べられていたことがとても印象に残っています。これは、組合や執行委員としてあるべき姿を、私のような新米執行委員へ身をもって示して下さったと感じました。このことがこの度の大会で一番印象に残

った思いです。

出雲・大田地区の労働者の団結や頑張りに負けないよう、広島地区も盛り上げねばと、より強く感じました。ありがとうございました。最後に「団結、ともにガンバロー！」

出雲ブラジル人メンバーと大学生との交流会 2023.7.29



7月29日、大学1、2年生が出雲を訪問し、ブラジル人コミティメンバーと交流しました。

ブラジル料理に舌鼓を打ち、言語の壁を感じつつも、楽しい時間を過ごしました。

後日、ブラジルに行ってみよう！という学生も出てきています。皆様、ありがとうございました。

スクラムユニオン・ひろしまの活動報告と予定

7月 の報告 (一部抜粋)	8月 の予定 (一部抜粋)
1日 シェルター確認	2日 ユニオンネット全国幹事会
2日 スクラムユニオン・ひろしま第22回定期大会	3日 平和行進、東広島市実習生判決
3日 MCC/MSC交渉	5日 最低賃金審議会傍聴・あおぎり協同組合交渉
4日 県労委・出雲労働相談	6日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会
5日 アバンセ団交・出雲労働相談	7日 物語コーポ団交・アスベストユニオン
6日 中労委-コムテック第1回調査・実習生保釈	10日 実習生入管
9日 技能実習生相談	11日 出雲コミュニティとの交流会
16日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会	18日 出雲ブラジル人交流会
18/19日 出雲労働相談・フジアルテ事務折衝	21日 エイジトレーニング団交
22日 実習生を困らせて懇親会	24日 中労委・ふれあい学習会
23日 NPO事務局会議・最賃街宣	25日 県労協幹事会
24日 実習生ネット・物語コーポ団交・泉鋼業団交	26日 実習生ネット全体会
26日 出雲労働相談・フジアルテ事務折衝	27日 NPO事務局会議
29日 出雲メンバーと学生との交流会	9月3日 スクラムユニオン・ひろしま執行委員会
31日 アバンセコミティ 他	他